



鴨川シーワールドが県民の日に実施したマダタイの幼魚放流体験。6月15日、鴨川市(同園提供)

鴨川シーワールド、6月県民感謝

入園最多1万1774人

市町村優待利用も期待

鴨川市の鴨川シーワールドが6月に実施した県民のための入園優待制度「県民感謝月間」の入園者が、1万1774人と制度を導入した2014年以降で最多となった。同園は「感謝月間が県民へ着実に浸透してきた」と分析。同園では県内の各自治体を対象とした「市町村民感謝月間」も設けており、地元密着姿勢をさらに強めていく構えだ。

鴨川市の鴨川シーワールドが6月に実施した県民のための入園優待制度「県民感謝月間」の入園者が、1万1774人と制度を導入した2014年以降で最多となった。同園は「感謝月間が県民へ着実に浸透してきた」と分析。同園では県内の各自治体を対象とした「市町村民感謝月間」も設けており、地元密着姿勢をさらに強めていく構えだ。

東条海岸に設置した棧橋で県の魚「マダタイ」の幼魚放流体験も実施する。

■割引を実施する県内自治体

- 1月 匝瑳市
- 2月 鴨川市、銚子市、長南町
- 3月 茂原市、南房総市、山武市、香取市、横芝光町、鋸南町
- 4月 四街道市、睦沢町、長柄町
- 7月 東庄町
- 8月 八街市、白井市、袖ケ浦市、多古町
- 9月 富津市、君津市
- 10月 市原市、千葉市、大多喜町
- 11月 館山市、木更津市、長生村

※鴨川市は2月11日の市民の日に無料開放

県民向けに設定した「特別な月」は年々、認知度が高まり、入園者数の増加につながっていた。今年も天候に恵まれたこともあり、前年比約2割増で初めて1万1千人を超えた。

地域に根差したテーマパークを目指し、同園が県民感謝月間と共に利用を推進しているのが、市町村ご

とに設定している感謝月間だ。市制施行の月などが感謝月間となっており、やはり各自治体の住民の入園料を割引する。高校生以上は2千円、4歳〜中学生は千円とする。14年11月に始めた館山、木更津、長生の3市村を皮切りに現在、26市町村まで導入実績は増えている。8月は八街、白井、袖ケ浦、多古の4市町の住民が対象。担当者は「鴨川シーワールドが地元のテーマパークであることを県民全体の意識として持ってもらえたら」と話し、全54自治体に導入してもらいたいと考えている。